

赤碕駅の活用について 一緒に考えるワークショップ

もう一度、駅を
地域のホーム(拠点)に

令和4年12月4日（日） 13時30分～ 分庁舎多目的ホール

企画政策課

日程

13:00～ 受付

13:30～ 開会、あいさつ、諸連絡

13:45～ 赤碕駅内部動画見学

14:00～ 問題提起 「駅の現状と活用の事例」

講師：米子工業高等専門学校 教授 加藤博和

14:45～ 休憩

15:00～ ワークショップ

「みんなでつくる赤碕駅の未来

～私たちができること～」

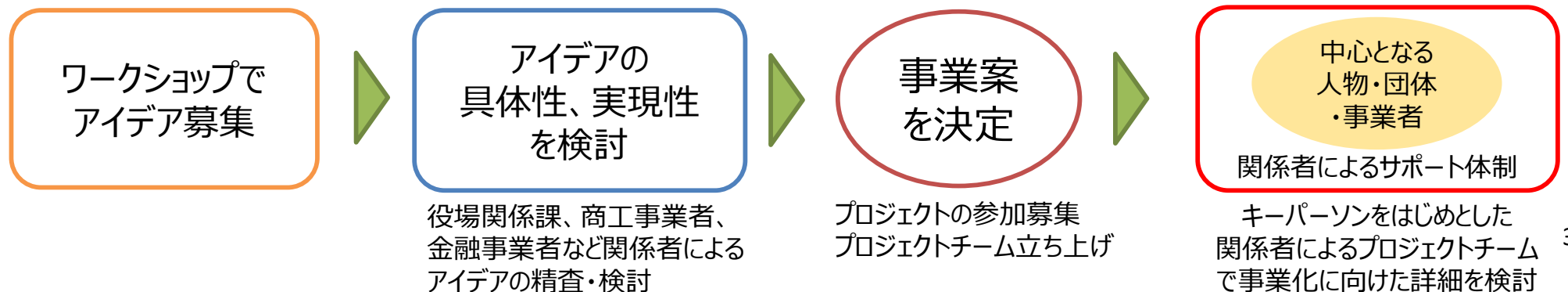
コーディネーター：鳥取大学 准教授 長曾我部まどか

16:45～ 閉会

目的

- 赤碕駅が無人化となって1年半が経過しました。
- 老朽化が進む建物、駅利用者も年々減少する中、JR西日本では利用者が少ない駅について維持管理しやすいシンプルな形の転換をすすめています。
- 町では歴史ある駅舎をこれからも残していくため、**JR西日本より駅舎を譲り受けることを計画**しています。ですが、ただ譲り受けるだけでは地域の活性化につながりません。
- 赤碕駅や駅前をもう一度、人が集う場所にするために事務室などがある東側の空きスペースを含め、**駅全体の活用について考えていく必要**があります。
- 駅で何ができるのか？自分自身の関わり方は？今後も継続していく取り組みとしていくためには？
- 皆さんと一緒に考え、より魅力的な**アイデアをプロジェクト化**し、実現に向けすすめていきます。

〔ワークショップ後の動き〕



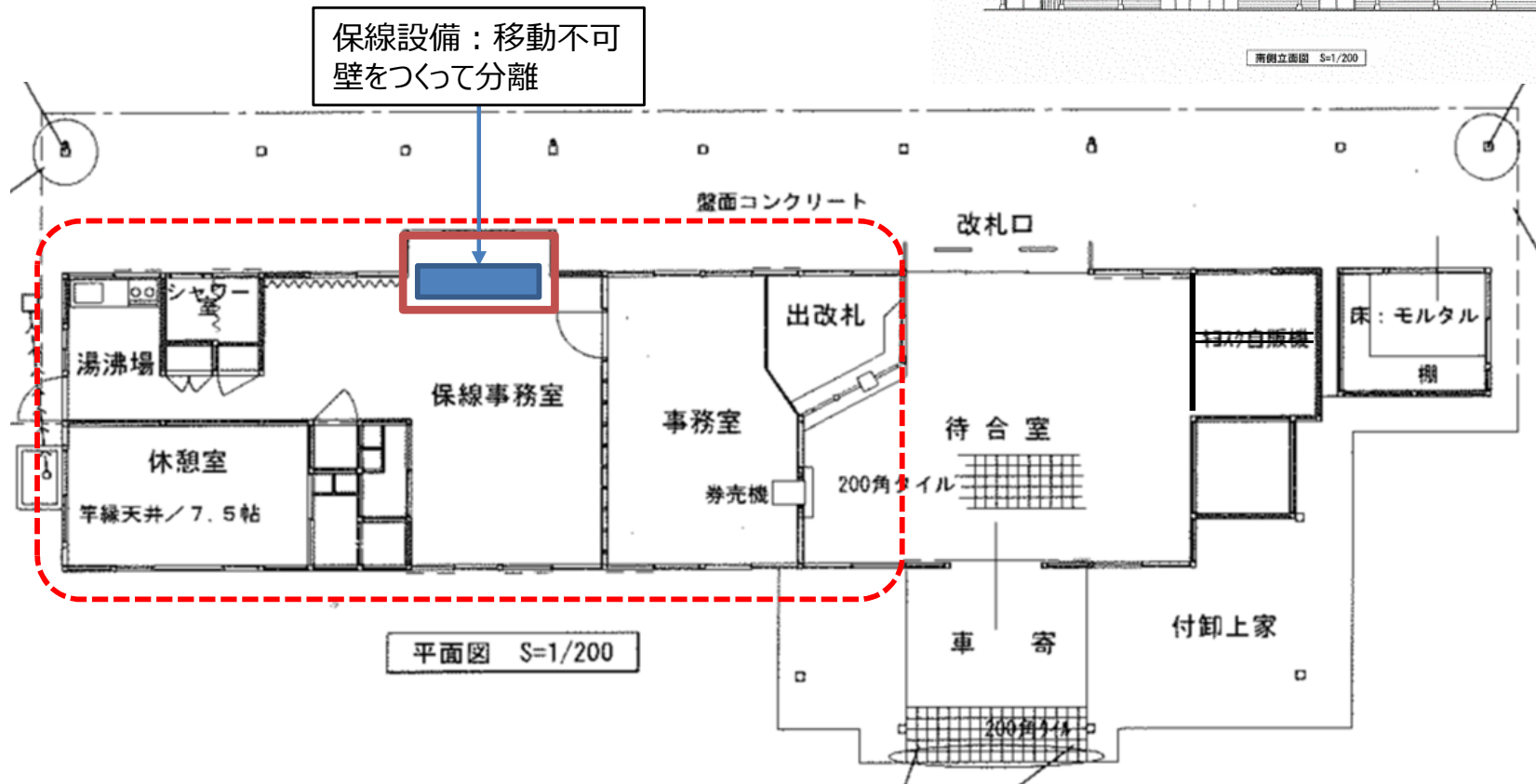
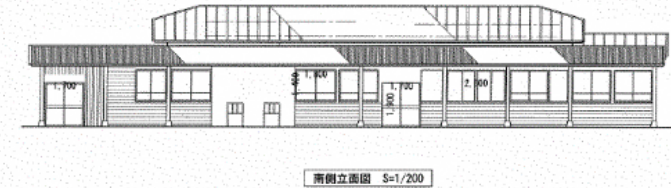
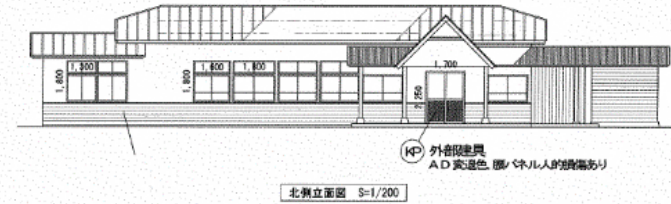
駅舎の活用にかかる町の考え方

- ① 赤碕駅に多くの人が集い、にぎわい生まれる場所となる利活用方法を期待しています。単なる一企業の事務所といった使い方は想定していません。
- ② 駅舎を新しく建て替えるといった大規模な改修は考えていません。できるだけ今の駅舎の形を活かした取り組みをお願いします。
- ③ 町が駅舎を活用した取り組みを行うのではなく、住民の皆さんや民間事業者が主役となる魅力的な取り組みを優先します。
- ④ 町ではアイデアの実現に向けて一緒に協力（協議・調整、改修・設備費用等に関する支援、PR・広報など）していきます。

諸連絡

- 本日の様子を撮影し、町報、ホームページへ掲載させていただきます。また、報道提供もさせていただきますのであらかじめご了承ください。
- 感染症予防対策のため、定期的な換気を行います。
- 体調等に不安を感じられた場合は、途中で退席していただいて差し支えありません。お近くの職員までお声かけください。
- 携帯電話は、マナーモードにしてください、通話は会場の外でお願いします。
- ワークショップで皆さんが記入されたアイデアシートは回収させていただきますので、ファシリテーターにお渡しください。

JR赤碕駅内部 動画見学



ワークショップの説明

テーマ **みんなでつくる赤碕駅の未来** ～わたしたちができること～

	問い	時間配分	道具
スタート 1	自己紹介をしましょう。各質問に短くお答えください。 1. お名前、お住まい 2. なぜこのWSに参加しましたか 3. 講演を聞いて何が一番心に残りましたか？	①書く2分 ②発表する8分(1人2分) 計10分	A4用紙
2	これから赤碕駅がどのようになればいいですか？ • 誰のため、どんな駅・駅周辺になればいいですか？ • なぜそう思いますか？ • ○○な赤碕駅でまとめてみましょう。	①書く5分 ②発表する10分(1人2分) ③グルーピングする10分 計25分	ふせん 理想の駅 (赤色)
3	「○○な赤碕駅」を実現するために、どんなことができるといいですか？どんなことがやりたいですか？ • そのためには設備など必要であれば、付箋紙にメモしてください。	①書く5分 ②発表する10分(1人2分) ③グルーピングする20分 ④アイデアシートを書く10分 計45分	ふせん アイデア (黄色)
ゴール	赤碕駅の活用方法について具体的なアイデアがたくさん出ている		

ワークショップの説明

模造紙の完成イメージ 似た意見・アイデアはなるべくまとめましょう

